

Weekly Market Report

Nov.1.2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

2週間ぶりの水準まで円高進行するも、底値の堅い展開に。今週はFOMC、米雇用統計に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は、週後半にかけて円高進行するも下値の堅さがうかがえる展開となった。週初113円台半ばで開始したが、中国恒大集団のデフォルト回避（利払い実施）、株式市場の堅調推移を背景としたリスク選好の円売り圧力等により10/26にかけて、週間高値114.32円まで急伸。しかし、買い一巡後に伸び悩みと、米第3四半期GDP速報値の冴えない結果（約1年ぶり低成長）等が重石となり週後半にかけて10/14以来、約2週間ぶり安値圏となる113.25円まで円高進行。その後は心理的節目113円を意識し下げ渋ると、米主要株価指数の堅調推移や、米10年債利回りが1.60%台を回復したことによるドル買いフローにより114円台に上昇して越過。今週はFOMC、米10月雇用統計など重要イベントが控えており、パウエルFRB議長発言に注目。利上げ時期が早まるような発言があった場合、ドル高再燃の可能性あり。（市場営業部/治久丸）

今週の経済指標（予定）

日付	イベント	予想
11/1(月)	10月ISM製造業指数（米国）	60.5
11/3(水)	10月ADP雇用統計（米国）	40万人
11/3(水)	10月ISM非製造業指数（米国）	62.0
11/3(水)	FOMC（米国）	-
11/5(金)	10月雇用統計（米国）	45万人

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山下航平	113.50 - 115.50	米国をはじめとした主要国で金融正常化が進む中、日銀の金融政策に変化無いことから円安基調は継続する予想。
福永純一	113.20 - 115.20	今週は米経済指標発表が目白押しの中、豪・米・英の金融政策発表もあり、週後半は一段高を試す展開となるか注目。

2. 円金利相場概況

10年債利回りは半年ぶりの高水準。今週はFOMCに注目。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



GIGB10 Index (日本国債10年) JGB.F 20 日 30 分 Copyright© 2021 Bloomberg Finance L.P. 01-Nov-2021 07:28:10 (出所) Bloomberg

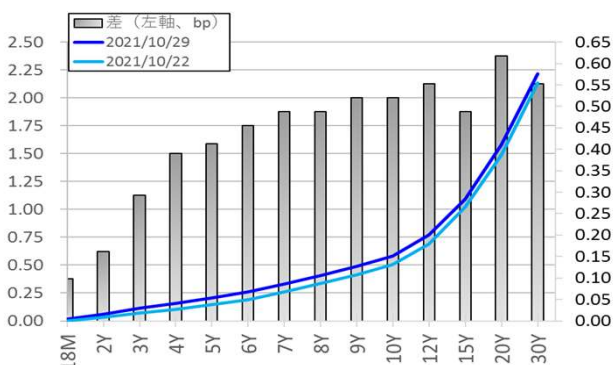
コメント

先週の10年債利回りは、狭いレンジ内で推移するも半年ぶりの高水準となる0.100%を超えた場面があった。週初は米金利低下を受け10年債利回りも低下してスタートするも、衆院総選挙後の国債増発懸念や米金利上昇につられる形で0.100%を突破。その後も日経平均株価の大幅高を受け一時0.110%まで上昇。週末にかけては、日銀政策決定会合の影響は限定的であったものの、日本株下落からリスクオフムードが広がり月末の調整を経て0.099%で越週した。

今週はFOMCを筆頭に重要な経済指標の発表が控えており、10年債利回りは引続き米金利の動向に左右される展開が続くと思料。足元で米金利上昇に一服感があるものの、FOMCの内容次第では短期的に大きく動く可能性がある。米金利の展開に注意しつつ再び0.100%を超える場面が継続するのかに注目したい。（市場営業部/嵯峨）

金利スワップ変化（1週間）

(%)



5年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.075% - 0.110%	今週は、FOMC後のパウエル議長記者会見での、米利上げ見通しに関する発言に注目。円金利は米金利に追随の見通し。
伊豆浦有里恵	0.070% - 0.115%	欧米や豪州での金利上振れリスクの高まりや衆院選結果を受けた国債増発懸念を背景に、金利は上昇バイアスがかり易い。

3. 今週のトピックス

当面の豪ドル相場見通し

資源価格の高騰を受けた貿易黒字の拡大が豪ドル相場を下支え

<当面の豪ドル相場見通し>

当面の豪ドル相場については底堅い展開を予想。米国の金融政策正常化に向けた動きを受けてドル買い圧力が強まる中、中国の景気減速懸念などが豪ドル相場の上値を抑制しているが、オーストラリアでの行動制限の緩和による景気回復期待や資源価格の高騰を受けた交易条件の改善が豪ドル相場の下値を支えそうだ。また、シカゴIMMの投机筋ポジションでも豪ドルのショートが過去最大まで拡大しており、投机筋によるポジションのアンウインドをきっかけに相場が大きく戻す可能性もある【図表1】。豪ドル相場の当面のレンジについては、対ドルでは200日移動平均の0.7558を中心とした0.7300-0.7800、対円では2018年高値の89.09円を上値ターゲットとした83.00-89.00円のレンジを想定している。

<オーストラリアの経済状況と金融政策>

オーストラリア経済については、2021年4-6月期の実質GDP成長率が前年比+9.6%の大幅な伸びとなったが、今年夏場以降の新型コロナウイルスの感染拡大とロックダウンの再開、中国景気の減速懸念から景気回復ペースは鈍化しており、RBA（オーストラリア準備銀行）による2021年成長率見通しも4.75%から下方修正される可能性が高い。ただし、オーストラリアにおいてもワクチン接種の進展によって新型コロナウイルス感染者数の拡大は一服しつつあり、シドニーのロックダウンも4か月ぶりに解除されて経済再開への期待が高まっている状況だ。RBAの金融政策については、9月の政策会合で量的緩和における資産買入れ額を週50億豪ドルから40億豪ドルに縮小してテーパリングが開始されたが、来年2月までは週40億豪ドルの買入れ額を維持するとしており、追加的なテーパリングはしばらく先となりそうだ。また、RBAは現時点で賃金と価格の上昇圧力は限定的であるとして、2024年まで利上げは行わないとの方針を維持しており、金融政策の正常化は進めているもののいまだハト的なスタンスが継続されている。ただし、RBAが行っているワールドカーブコントロール（2024年4月償還の国債金利を0.1%に誘導する）が近く撤廃されるとの思惑から、オーストラリアの金利は中短期を中心に急上昇しており、米国よりも金利水準が高いことは豪ドル相場の後押し要因となってくる【図表2】。

<オーストラリアの貿易収支>

オーストラリアの貿易収支は8月の貿易黒字が151億豪ドルと過去最大まで拡大している【図表3】。オーストラリア最大の輸出品目である鉄鉱石については、中国が環境問題への配慮から鉄鋼生産を抑制しているため価格が2021年5月のピークから大きく下落しているものの、液化天然ガスや石炭の価格高騰と輸出の拡大が貿易黒字を大きく押し上げている。資源価格の上昇を受けた良好な交易条件は今後も豪ドル相場の下支え要因となりそうだ。（チーフ・マーケット・ストラテジスト／諸我）

【図表1】 豪ドル相場とシカゴIMM投机筋ポジション



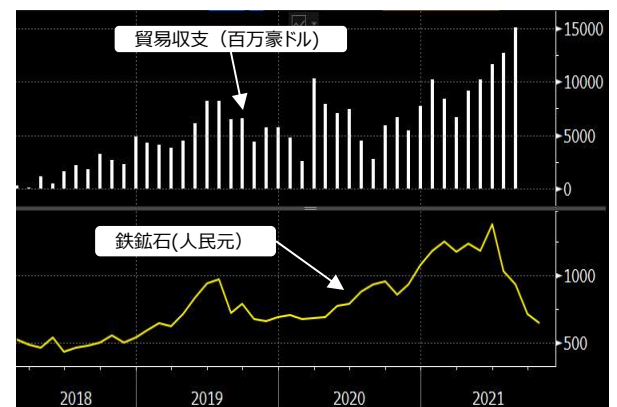
(出所: Bloomberg)

【図表2】 オーストラリアの政策金利と10年国債金利



(出所: Bloomberg)

【図表3】 オーストラリア貿易収支と鉄鉱石価格



(出所: Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会